

『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (三)

しのぶれど色に出でにけりわが恋は 物や思ふと人の間ふまで

平兼盛

〈歌意〉

心の中に隠してはいたけれども、私の恋は顔色に表れてしまったよ。「あなたは物思いをしているのですか」と人が尋ねるほどに。

〔出典〕『拾遺集』(恋・六二二番)

(平 兼盛)

生年未詳、永祚二(九九〇)年、光孝天皇の曾孫篤行王の三男。

〈よみ〉

人  
のとふ 万 弓

し 能布れと いろ二出尔け  
李 王可こひハ

ものや於もふと

①

②